

Study on the Influence of Types and Uses of Natural Resources on Economic Growth

ダシジャムツ, バヤルマ

<https://doi.org/10.15017/1500492>

出版情報：九州大学, 2014, 博士（経済学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏 名	ダシジャムツ バヤルマ (Dashjamts Bayarmaa)			
論 文 名	Study on the Influence of Types and Uses of Natural Resources on Economic Growth (天然資源の種類および利用方式が経済成長に及ぼす影響についての研究)			
論文調査委員	主 査	九州大学	准教授	堀井 伸浩
	副 査	九州大学	教授	藤田 敏之
	副 査	九州大学	准教授	加河 茂美

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

天然資源に恵まれながら低成長に甘んじる国々が数多く存在する現実を「資源の呪い (Resource Curse)」と呼び、重要な投入財である資源に恵まれていることが逆に成長を阻害する原因として、オランダ病、レントシーキングなど制度面の悪化、為替レートや物価の歪みなどが指摘されている。他方、近年は中国を始め、資源国でありながら目覚ましい成長を遂げつつある国もある。本論文は「資源の呪い」に関連する先行研究をレビューした上で (第 2 章)、従来の研究が天然資源の種類、特にエネルギーと金属資源を区別せず分析している問題点を指摘し、両者が経済成長に及ぼす影響の違いに着目して「資源の呪い」が生じる条件について分析している。

第 3 章において最小二乗法による回帰分析で資源輸出と経済成長との間に統計的に有意な負の関係があると結論付けた **Sachs and Warner** 論文に対し、本論文は資源を農産品、食料、エネルギー、金属に種類分けし、同様の手法で金属資源輸出のみが経済成長に有意な負の効果を持つが、他の資源と経済成長の間には有意な関係が見られない点を明らかにした。第 4 章ではオランダ病に関する理論モデルと **Krugman** の動学的比較優位モデルを拡張し、資源の種類、生産量が資源国の産業構造、貿易、国内賃金水準に与える影響を理論的に考察している。第 5 章と第 6 章は中国とモンゴルをケースに賦存する資源の種類によって経済成長に異なる影響が現れる様相を統計的に検証した。第 7 章は研究全体をまとめ、エネルギーと金属、異なる天然資源について経済成長につなげるためのプロセスの違いに着目し分析結果を総括している。

本論文は、「資源の呪い」に関する先行研究の間で異なる結論が導かれるのは資源の特性の違いを考慮していない点があると示唆した点に独自性があり、高く評価できる。また計量的な実証分析に加えて理論的考察とケーススタディを組み合わせることで、多角的な視点から「資源の呪い」というテーマに迫った総合的研究として貢献を果たしたものと言える。

以上の理由により、本論文は博士 (経済学) の学位を授与するに値するものと認める。